

「里山レンジャーのロマン紀行 No.16 4月18～5月11日」



←ムラサキケマン

初夏までに地上部は枯れてしまいます。スプリングエフェメラルの1つです。ケシ科に属し、全草に毒を有します。

山菜であるセリ科のシャク（ヤマニンジン）と生育場所や葉の形が非常によく似ているので、注意が必要です。

ヒメウズ→

(再掲)

昨春、当地で見つかった新種です。シカ害にあうこともなく、今年も無事に姿を見せてくれたので再掲しました。



←オオカワジシャ

(再掲) 外来生物法により特定外来生物に指定されており、抜き取ったものを安易に移動させることは禁じられています。

大繁茂するので、当地では除去に努めています。大株になり、美しく花を咲かせましたのでカメラを向けました。1年草なので、種ができるまでに除去することが肝要です。最近、水辺によく見かけるようになりました。



←ヤブデマリ

当地では「山の恵み  
ビオトープ」の谷沿い  
に生えており、5月か  
ら6月にかけて、まる  
で木本のアジサイのよ  
うで、とても目を楽し  
ませてくれます。



↑「里の恵みビオトープ」の一角の風景

池回りの湿地帯がセイヨウタンポポの黄色一色に染まった後、  
今は真っ白な綿帽子がそよ風に揺れています。



春先のこと、里山ハウスの物置棚に、キビタキが卵5つを温めていました。  
雛が4羽ほど孵ったところに、何者かに襲われる悲劇が起きました。そこで、巣箱を  
3つ作り、ヒノキ林に設置してやりました。来春が楽しみです。